

東能勢中だより

有^{ゆう}(徳不孤必有隣)隣^{りん}



平成22年(2010年)6月号 No. 182

教師みな声を囁^からして麦の秋 (岩田由美)

季節が例年のとおりにならず、寒い日や暑い日が交互に來ています。季節の変わり目です。授業の中で、4月5月と新入学の1学期は何かと声を張り上げての授業になり、声が出なくなる教師も出てきます。麦秋の候です。保護者の皆様はいかがでしょう。

計画の実行性と60年

中間テストが終わりました。子どもさんの様子はどうでしたでしょうか。計画を立てて子どもたちは、学習に向かったのでしょうか。計画を立てるといふことを、大人の私たちもしなくなっています。自分で計画を立てて動いているというより、立てられた計画のもと動かされているように感じないでしょうか。それも短いスパンで。

かつて一年間を考えた農耕文化から、早く早くの軽薄短小の電子文化に入ったことによって、短いスパンでの計画はあるが、人間の成長の時間での計画が考えられないような、気ぜわしい生活を余儀なくされているように思います。子どもの成長を待つという余裕が無く、せかされるせかす風潮が表れているように思います。「すぐに結果が出ないと納得しない。」という社会になっていないでしょうか。ご家庭ではどうでしょうか。ゆっくりと待っているという態度がとりにくくなってきているのではないのでしょうか。それが子どもたちの言動にも表れているようです。だから、その気ぜわしい雰囲気に乗れない子やゆっくり目の子が、生活しにくくなっているようにもいます。

かつて林業は木を植えて60年待つ。次の世代が、先代が育てたその木を売ってその恩恵を被るというような、気の長い産業はすたれてきています。眼先しかない、その眼先も日々くるくる変わるようなもの。だからよけい気苦しくなる。林業などは、木を植えてからの60年、何もしないのではなく、本当に大切に山を手入れして一本一本育てていく。「美山」という言葉がありますが、手入れをすれば、山はそれにこたえてくれます。キノコや山の動物が安心して暮らす。自然の摂理のもとで、個体を適当な数に維持してくれる。その恩恵を人間はいただく。

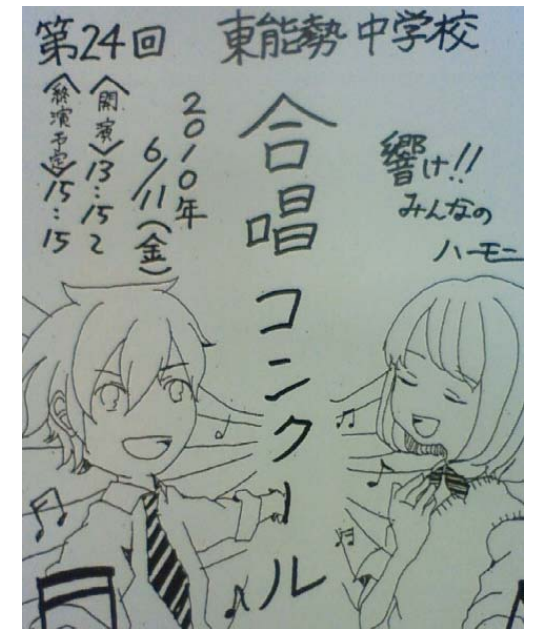
人間も生まれてから60年、還暦の年を迎えて、一区切りするわけです。お祝いをして御苦労さんの時間です。教育もしかりだと思ひます。

「教育は、国家百年の大計」と言ひます。その大計を皆さんとともに画いていきたいと思ひます。

合唱コンクールに向けて

どこからともなく歌声が聞こえてきます。実は、3年生は修学旅行の中でも歌っていました。ハウステンボスの中で女子のハミングを聞きました。学校は、歌声が聞こえると6月だと思ひます。朝の澄んだ空気の中から聞こえてくる皆の声は、男子の声変わりの声はあるものの、成長していく若い声は、人の心を弾ませる要素を持っています。丁寧に歌う生徒の声は、人の心を震わせるものです。楽しみです。

だからよけいに、自分の声に自信を持って、前を向いて、横の人の声を聞きながら歌ってほしいのです。



各クラスのポスターです。なかなかの力作ぞろいです。

六月の予定
八 (火) 二年 車いす・点字・手話の体験や学習
十一 (金) 合唱コンクール (ユーベルホール)
十二 (土) 町PTA総会
十四 (月) 全校集会(玄関)
十五 (火) 三年 実力テスト
十六 (水) 一年 花植えボランティア
十八 (金) 全校朝礼 教育実習終了
十九 (土) 学校協議会 PTA授業参観 学年懇談 三年 進路説明会
二十一 (月) 振替休日
二十四 (木) 教育委員の視察
三十 (水) 期末テスト(七月二日)